

学べるゲラ

第50回

パレスチナの国連加盟申請

※2024年5月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

アムステルダム
420
ハンガリー
イスラエル
ミコネシヤ連邦
十ウル
パソ
パプアニューギニア
米国

国連総会 (193カ国) は5月

10日、パレスチナの国連加盟を支持し、加盟勧告を求める決議案を

否決した安全保障理事会に再検討を

求める決議案を賛成多数で採択

した。投票した加盟国のうち日本

を含む143カ国が賛成、米国や

イスラエルなど8カ国が反対、25

カ国が棄権した。国際社会の総意

が示された形だが、正式加盟には

安保理による勧告が必要だ。常任

理事国の米国の反対が続く限り、

見通しはたたない。

4/18 安保理では4月、パレスチナの

加盟勧告を求める決議案が採決に

かけられたが、ロシアが拒否権を

行使して否決された。

総会の決議案はアラブ諸国を代

表してアラブ首長国連邦が提出し

た。

安保理で9カ国以上賛成
(拒否権発動なし)
↓
勧告
↓
総会に3分の2以上賛成

1/2

9 (?)

米国

(?)

Alternate Representative
Robert A. Wood

deep regret
and concern

支持

米

られ

た。パレスチナは国連憲章に基づ

た国家としての加盟資格を有し、

国連加盟が認めらるべきだと明記。

パレスチナ国家の樹立を前提とす

る「2国家解決」への揺るぎない

指針を確認した。米国の拒否権行

使で安保理の勧告が妨げられたこ

とに「深い遺憾と懸念」も示した。

また決議の付属文書では、パレ

スチナが国連総会で中東問題でも

発言することを認めるなど「特権

も認めた。ただし、「例外的に」

と強調されており、外筋筋は「台

湾の加盟問題を抱える中国などへ

の配慮だ」とみる。

米国のウッド国連次席大使は投

票後の説明で「2国家解決」への

支持を強調しつつ、国連の場では

なく「当事者間の直接交渉を通じ

on an exceptional
basis

(?)

以外

Other than
~Middle East issues

Should be admitted
to membership

次席常駐代表

再検討を要請した。

て達成されるべきだ」とする従来からの主張を繰り返した。米国連代表部は「安保理で再検討しても、同じ結果が予想される」としており、拒否権の再公使を示唆している。

行

トル

欧州諸国は対応が割れ、英国や

ドイツなどは米国と同様の理由で

棄権する一方、フランスやスペイン

などは賛成に回った。日本の志

野光子・国連次席大使は「イスラ

エルとパレスチナは共に、平和的

かつ独立した国家として存在する権

利がある」と賛成理由を語った。

米国の同盟国である韓国や豪州も

賛成した。

パレスチナは2011年9月に

正式加盟を申請。当時も米国の反

対により安保理での審議は棚上げ

にされ、代替策として12年の国連

総会で「オブザーバー国家」に格

上げされた。パレスチナ自治区ガ

ザ地区での戦闘による人道危機が

深刻化する中、24年4月に加盟の

Observer State Status

ガ

11/29

9/23

4/2